一般社団法人 日本歯科医学会連合主催
商標登録展開ワーキンググループ2026年度フォーラム
プログラム　抄録集

生涯を通じた口腔機能管理

パート1；小児期を考える

令和8 (2026) 年12月7日（月）～
令和9 (2027) 年1月22日(金)
オンデマンド配信

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp

日本歯科医学会連合
Japanese Dental Science Federation

一般社団法人 日本歯科医学会連合主催

商標登録展開ワーキンググループ2026年度フォーラム

プログラム　抄録集

生涯を通じた口腔機能管理
パート1；小児期を考える

オンデマンド配信 ： 令和8 (2026) 年12月7日（月）～　令和9 (2027) 年1月22日（金）

【プログラム】

講　　演

1. 成長発達期の口の機能の問題　－口腔機能発達不全症とは？－
   木本茂成　神奈川歯科大学

2. 口腔機能発達不全症の現状と対応
   齊藤一誠　朝日大学

3. 医療的ケア児における口腔機能発達
   髙井理人　医療法人稲生会　生涯医療クリニックさっぽろ

総合討論

（座長）田村文誉　商標登録展開ワーキンググループ委員長　日本歯科大学

成長発達期の口の機能の問題 － 口腔機能発達不全症とは？－

木本茂成（きもと しげなり）

神奈川歯科大学　特任教授



抄 録

2018年に公的医療保険の歯科における対象病名として，小児の「口腔機能発達不全症」と成人の「口腔機能低下症」が導入された。口腔機能発達不全症とは，「食べる機能」「話す機能」「その他の機能（指しゃぶりなどの口の癖や口呼吸を含む）」の発達の遅れや，機能の獲得に問題がある状態を指している。ここで重要なのは，この病名の対象は明らかな食べる機能の障害となる全身的な病気をもたない，いわゆる「健常児」が通常の成長過程において機能の獲得に遅れを生じている状態である。すなわち，子ども自身の要因や生活環境に対して，歯科での専門的なサポートによって改善が見込まれる場合が対象となる。

口の機能は全身の運動機能の一部であり，アスリートが筋肉を使うことで骨格を成長させるように，子どもも乳幼児期に「食物を捕らえる・飲み込む・噛む・発音する」といった基本的な機能の大部分を獲得しながら顎や顔面の骨格を成長させる。この時期にむし歯や「いつも口が開いている（お口ポカン）」「食べるのに時間がかかる」「指しゃぶりがやめられない」などの問題を放置すると，将来の歯並びや咬み合わせ，さらには全身の成長に影響が及ぶ可能性がある。そのため，むし歯などの予防とともに，健全な口の機能を育てることが必要不可欠である。ただし，歯の生え方や機能の発達には大きな個人差があるため，一人ひとりの状態に合わせた対応が求められる。

成長期に健全な形態（歯並びや顔面部の骨格）と機能（口の機能）の調和を目指すことは，人生100年時代を迎えた超高齢社会において，高齢期の口の衰えを防ぎ，一生美味しく食事を楽しむための鍵となる。これからは，一人ひとりのライフコース（人生）を見据えた歯科医療の展開が望まれる。本講演では，公開フォーラム Part 1 の導入として口腔機能発達不全症について解説する。

略 歴

学歴

1984年　　神奈川歯科大学 卒業

1988年　　神奈川歯科大学大学院歯学研究科 修了

職 歴

1988年　　神奈川歯科大学小児歯科学講座 助教

1991年　　ワシントン大学（St. Louis）メディカルセンター 客員研究員

2000年　　神奈川歯科大学小児歯科学講座 講師

2006年　　神奈川歯科大学小児歯科学講座 教授

2025年　　神奈川歯科大学 特任教授

著 書

子どものお口どう育つの? ～口腔機能の発達がわかる本～（医歯薬出版）

小児歯科学ベーシックテキスト・クリニカルテキスト（永末書店）

小児歯科学　第6版（医歯薬出版）

口腔機能発達不全症対応マニュアル（デンタルダイヤモンド社）

学会活動

2016～2020年　　公益社団法人日本小児歯科学会 理事長

2016～2020年　　日本歯科医学会 常任理事

2018～2026年　　一般社団法人日本歯科専門医機構 理事

2024年～　　日本歯科医学会 専門・認定分科会資格審査委員会 委員長

口腔機能発達不全症の現状と対応

齊藤一誠（さいとう いっせい）

朝日大学歯学部 口腔構造機能発育学講座 小児歯科学 教授



抄 録

小児期は，まだ獲得していない機能を，さまざまな経験を通じて徐々に習得していく時期である。そのため，「ハビリテーション（機能の獲得）」という考え方が必要となる。口腔機能の発達は全身の発達と関連しているが，その発達様式は全身とは異なる。また，歯の交換や顎顔面の成長に伴って口腔の形態が大きく変化するため，口腔機能の獲得には「オーラル・ハビリテーション」としての支援が欠かせない。

小児期には，身体や顎顔面頭蓋の成長に合わせて口腔機能も発達する。口腔機能の発達不全に適切に対応するためには，各発達段階における正常な口腔機能の発達像を理解しておくことが重要である。2018年度からは，口腔機能の発達に問題がみられる小児に対し，「口腔機能発達不全症」として保険診療で対応できるようになった。

本講演では，小児の口腔機能発達不全症の現状とその対応について概説する。

略 歴

学歴

1999年　　九州大学歯学部 卒業

2003年　　九州大学大学院歯学研究科博士課程 修了

職 歴

2003年　　九州大学歯学部附属病院 医員

2005年　　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 助教

2007年　　鹿児島大学医学部歯学部附属病院 講師

2008年　　ベイラー大学歯学部（米国テキサス州）客員研究員

2010年　　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 准教授

2012年　　新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授

2021年　　朝日大学歯学部 教授（口腔構造機能発育学講座 小児歯科学分野）

著 書

「お口ぽかん Perfect Guidebook」（松風クラブ，2022年）

小児歯科学ベーシックテキスト 第3版（永末書店，2023年）

小児歯科学クリニカルテキスト 第3版（永末書店，2023年）

歯科衛生士講座　小児歯科学　第2版（永末書店，2025年）

患者さんにしっかり説明できる口腔機能発達不全症読本（クインテッセンス出版，2025年）

学会活動

2022年～現在　　日本小児歯科学会常務理事
2023年～現在　　日本臓器保存生物医学会国際パートナー誌編集委員長・評議員
2024年～現在　　日本顎口腔機能学会 常務理事
2024年～2026　　日本小児歯科学会 中部地方会 会長
2026年～現在　　日本咀嚼学会 常務理事

医療的ケア児における口腔機能発達

髙井理人（たかい りひと）

医療法人稲生会　生涯医療クリニックさっぽろ 歯科科長



抄 録

人工呼吸器や経管栄養など，日常的に医療的ケアを必要とする「医療的ケア児」と呼ばれる子ども達が増加し，全国で２万人を超えると推計されている。その状態像は幅広く，運動機能や知的機能に重度の機能障害を伴う子どもから，歩いたり話したりすることができる子どもまでさまざまである。

小児の口腔機能発達を考える際，「食べる」「話す」という機能が注目される。一方で，摂食嚥下障害により，経口摂取を行わず経管栄養で栄養を摂取している医療的ケア児のことも考えてみたい。口腔には，どのような特徴や課題があるだろうか。食べていなければ，口腔の問題は少ないのだろうか。

経管栄養を使用する医療的ケア児では，経口摂取を行う子どもと比べ，齲蝕のリスクが低い一方，歯石沈着や歯肉炎が多いことが報告されている。また，「食べる」という口腔を機能させる機会が限られるため，自浄作用が働きにくく，舌苔や剥離上皮膜などが付着しやすい。口腔に感覚刺激が入る経験が限られている場合には，口腔に触れられることに対する過敏やケアへの拒否がみられることもある。さらに，経口摂取をしていなくても唾液を誤嚥する可能性があり，口腔衛生状態の維持は誤嚥性肺炎のリスク管理においても重要である。歯の交換期には，自然脱落した乳歯の誤嚥にも注意を要する。

「口から食べていないから口腔の問題がない」のではなく，食べていない子どもだからこそ，口腔の状態を評価し，早期から口腔健康管理を行うことが重要である。通院が困難な医療的ケア児には歯科訪問診療も選択肢となる。子どもの全身状態や生活環境，家族の状況を理解し，一人ひとりに応じた歯科医療につなげたい。

略 歴

学 歴

2013年　　北海道大学歯学部 卒業

2018年　　北海道大学大学院歯学研究科博士課程 修了

職 歴

2015年　　医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ （歯科立ち上げ）

2019年～　医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ 歯科科長

2022年～　北海道大学病院小児・障害者歯科 客員臨床助教

2026年～　医療法人稲生会 研究推進責任者

著書

歯科訪問診療ハンドブック: 小児から高齢者まで全世代に対応するための心得（医歯薬出版, 2023年）

医療的ケア児等コーディネーター実践テキスト（メディカ出版, 2024年）

小児在宅歯科医療の手引き 第2版（医歯薬出版, 2025年）

標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第3版（医学書院, 2026年）

歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 第2版（医歯薬出版, 2026年）　他

学会活動

2018年～現在　小児在宅歯科医療研究会 世話人

2022年～現在　日本障害者歯科学会 医療保険委員会委員

2024年～現在　日本小児歯科学会 小児保健委員会委員

2024年～現在　日本障害者歯科学会 医療技術推進検討委員会委員

2026年～現在　日本障害者歯科学会 歯科衛生士連携委員会委員

2026年～現在　日本障害者歯科学会 障害者歯科活性化委員会副委員長

2026年～現在　日本小児在宅医学会 編集委員会委員